

これがCOVID-19の皮膚症状だ!

大塚篤司 OTSUKA, Atsushi 近畿大学医学部皮膚科学教室主任教授

Point!

COVID-19の皮疹は、全身性の斑状丘疹、丘疹-水疱性発疹、網状皮斑、蕁麻疹、凍瘡様皮疹、その他の発疹に大別される。

COVID-19に伴う皮疹

新型コロナウイルス感染症はCOVID-19と名付けられ、ワクチンが開発された現在も世界中で猛威を奮っている。

COVID-19に関連した皮疹は、はじめ中国から報告があった¹⁾。1,099例を対象とした論文では、COVID-19の患者のうち0.2%に皮膚症状がみられたとのことであった。

その後、イタリアから、88例の患者のうち18例(20.4%)に皮膚症状が出現したとの報告があった²⁾。皮膚症状の内訳は、18例中の14例が紅斑丘疹型、3例が蕁麻疹、1例が丘疹水疱性皮疹であった。皮疹は体幹を中心に出現し、痒痒はほとんどない。

同じくイタリアから、COVID-19で皮膚症状が出現した22例の解析において、12例(54.5%)が丘疹水疱性皮疹であり、呼吸器症状がなく皮膚所見のみの症例があると報告された³⁾。

また、“コロナのつま先”と呼ばれる凍瘡様皮疹の報告もある⁴⁾([図1](#))。375例を解析したスペインからの報告では、

19%のCOVID-19患者に凍瘡様皮疹が出現したとしている。一方、紅斑丘疹型の発疹が47%と最も多く、続いて蕁麻疹タイプが19%となっている。これまでに報告された皮疹を呈した72例のCOVID-19患者を解析した最近の総説では、紅斑丘疹型の発疹(麻疹様)が(36.1%, 26/72)、丘疹水疱性皮疹(34.7%, 25/72)、蕁麻疹(9.7%, 7/72)、有痛性肢端赤紫色丘疹(15.3%, 11/72)、網状皮斑(2.8%, 2/72)および点状出血(1.4%, 1/72)([図2](#))であった⁴⁾。

以上のことから、ほかのウイルス疹とほぼ同様に、COVID-19においても紅斑丘疹型が最も頻度の高い皮疹と考えられる。また、蕁麻疹様の皮疹の出現頻度が高い。若年者には呼吸器症状を伴わず、皮疹のみの軽症例が多いことは特記すべきことだろう。痘瘡および凍瘡様皮疹が特徴的所見として、症例報告を含め多く論文掲載されている。これらはCOVID-19が血管炎を起こす病原性と深く関わっている可能性がある⁵⁾。つまり、COVID-19による皮疹は、コロナ



図1 “コロナのつま先”

(Kolivras A, Dehavay F, Delplace D, et al. JAAD Case Rep. 2020 ; 6 : 489-92.)